

令和8年度

教 育 基 本 方 針

学校法人 中央工学校

中央工学校 O S A K A

1 本年度の基本方針

本校の各部署においては、本年度、下記の事項に留意し、安定した学校基盤を構築し、円滑な学校運営を推進する。

(1) 教務室

- (ア) 学校施設の適切な維持管理と状況把握を行い、計画的な改修と保全を実施することで、快適な学習環境の提供と施設の長寿命化を推進する。
- (イ) 光熱水費や備品等の価格高騰を踏まえ、令和8年度から適正な学費を設定したうえで、その運用を通じて健全な学校運営の確保を図るとともに、収支改善に努める。
- (ウ) 高等教育の修学支援新制度及び日本学生支援機構奨学金について、学生への周知を徹底し、関連手続を適切に実施する。また、学費未納者や滞納者への対応については、学則に基づき、適切な徴収を行う体制を維持・強化する。
- (エ) 固定資産管理ルールに従って適切な処理を行い、他部署との協力体制を強化し、備品管理の合理化を推進する。
- (オ) 個人情報に関する書類等の管理・取り扱いの徹底を図る。また、災害リスクに備え、クラウドを活用した重要データのバックアップの適切な保管と整備に努める。
- (カ) 高大接続改革に関する情報を収集し、教育室（建築系）と連携して対応策を検討する。

(2) 教育室（建築系）

- (ア) 教員業務の合理化を進め、教育内容及び教育環境の一層の向上を図る。
- (イ) 実践的な能力を備えた人材育成を目的として、教員が積極的に業界理解を深め、その知見を教育内容に反映させる。
- (ウ) 教員は自己研鑽に努め、資格試験の合格率向上などの成果に結びつく教育方法及び学級運営のスキルを習得し、教育力の一層の向上を図る。
- (エ) カリキュラム変更に合わせて、シラバスを見直し、授業の理解度・満足度、さらには教育の質的向上を推進する。
- (オ) 一級・二級建築士試験に向けた支援体制及び指導内容の充実を図り、合格率の向上に取り組む。

(3) 教育室（国際系）

- (ア) 特色ある授業を展開し、卒業後の進路に繋げるとともに、留学生や日本語教育機関からの信頼を深め、持続的な定員充足を目指す。
- (イ) 業務に対する共通目標と協働体制の意識を堅持し、業務の質的向上を図り、計画的で円滑な運営を推進する。

- (ウ) 就職を目指すブリッジエンジニア科においては、社会や企業のニーズに即した人材育成を進める。
- (エ) 留学生を取り巻く社会情勢や制度環境の変化に的確かつ迅速に対応し、状況に応じた柔軟な運営を行うとともに、長期的な視点に立った持続可能な運営体制を構築する。

2 本年度の留意事項

(1) 学校運営

(ア) 学校経営の健全化の促進

(a) 学生数の増加の促進

18歳人口が2018（平成30）年度から急減期に入り、近隣の大学における建築系の学部・学科の新設・増設等により、本校の学生募集は極めて厳しい状況にある。

学生数の減少は、学校の存続にかかわる問題であり、卒業生や関係企業にとっても影響が大きいことを全員が認識しなければならない。

このような状況を踏まえ、「資料請求数」および「イベント参加者数」の底上げを図るとともに、「出願数(AOエントリー数)」ならびに「入学者数」における歩留り率の向上を図る。あわせて、全教職員の意思統一のもと、広報業務の体制整備を推進する。

また、本校の強みを紙・ネット媒体はもとより、各種SNSを活用し、継続的なレーション活動を行い、入学者の早期獲得・増加に繋げる。

(b) 休学・退学防止策の検討

建築系では非常勤講師も含めた教員が、入学前の状況や、募集時の情報開示内容などを理解し、入学後に本人が感じるギャップ（失望）を軽減することに努力する。

令和7年度入学者より、さらなる学習効果の向上を目指し、ベネッセグループの(株)進研アドが開発した専門学校向けの「入学前教育プログラム」という教材を導入した。

教材の正答率で現状の学習レベルや提出状況を確認することで、入学する学生の特性や傾向を掴み、担当教員が事前に対応できる仕組みとした。また、令和8年度よりAO入試時、またそれ以外の形式の入試では、入学後にそれぞれYG性格検査を導入し、より詳しく学生それぞれの特性を把握し休退学防止に努める。

気になる学生については、担任一人で抱え込まず、相談しやすい組織づくりに努め、学内情報管理システムによる個別面談内容の記録を活用し、共有、連携して対処することで、退学に至る問題の発生を未然に防ぐことを図る。

さらに、学生の出席率の向上が退学防止に直結することは間違いないので、教員の学級運営スキル向上と全職員の明るく温かい対話、挨拶等によって、全学生が90%

以上の出席率となるよう努力する。

(c) 国際系の安定した運営・経営方向の検討

2024年以降留学生の国籍が大きく変わり、今後も日本語レベルの低下が懸念される。よって、留学目的が明確で、志の高い学生を選考することが大切である。

毎年出願者の多くが在校生や卒業生の紹介であることから、学校に対する学生の満足度と信頼度を実感できている。今後もこの流れを継続できるよう学生ファーストの姿勢で務めたい。また、日本語学校への定期的な訪問を通じて、進路担当の講師との信頼関係を深めていきたい。

(d) 内部進学者の増加の促進

進路選択の一つとして、建築系においては、建築学科、住宅デザイン科の半数程度を研究科へ進学させることを目標にしている。そのため、内部進学 of 動機付けとなるよう、2月の卒業成果・制作発表会では、研究科の学生の充実した様子を発表することで、在校生に向けて、研究科の存在感と魅力を校内で発信できるよう努めている。

また、2月末に、二級建築士学科模擬試験を、毎年校内で実施しており、1年生にも受験を促し、資格取得意識を高めるよう工夫する。

また、二級建築士を取得するメリット（就職活動において有利になる点、新卒1年目から即戦力として設計・監理業務に従事できる点、さらには将来の昇進・昇格や独立への道が早期に開ける点など）について、在校生及び卒業生の説明会を通して、学生に十分理解させる。これにより、研究科でさらに学び、建築分野で幅広く活躍したいという意欲の向上を促したい。

国際系においても国際コミュニケーション科からブリッジエンジニア科への内部進学を一定数確保することを目標とする。国際コミュニケーション科1年＋ブリッジエンジニア科2年の「3年制」での入学者を増やしていきたい。また、建築系への内部進学を推進したい。

(e) 合理的な広報活動の方策の確立

建築系においては、オープンキャンパス等の広報イベントのほか、高校訪問や会場・校内ガイダンス・出前授業の参加等については学内情報管理システムを活用し、昨年度の実績数値の検証を行い、効果的な広報活動の展開に努める。

また、近年の高校生は長時間集中して話を聞くことが難しい傾向にあるため、オープンキャンパスでは各説明を短時間で簡潔かつ魅力的にアピールできるよう、常に見直しと工夫を重ねる。

留学生の広報活動については国際系と連携し、イベント参加者にとって受験の決め

手となるホームページや募集要項の内容、入学試験の日程の精査、オープンキャンパス時に配布する資料、説明内容等に不整合が無いようビジュアル的な統一感に留意する。

国際系においては、昨年度に引き続き、学校訪問型の広報からガイダンス参加型の広報を展開し、学生にダイレクトに本校の学びを紹介する。一方で、年々在校生や卒業生からの紹介での出願が増えていることから、これまで以上に手厚いサポート、進路指導、他校にない課外授業の充実などで学生の満足度を上げることで紹介による出願がより増えるよう努める。また、令和8年度は、昨年と同様に早期出願受付を実施する。

(f) 適正な学費の見直し

光熱費や様々な備品の価格高騰をはじめ、人件費や委託管理費等の高騰に伴い、適正な学費（教科書・教材費、研修費等含む）の見直しを継続する。

(イ) 特色ある学校づくりの推進

(a) 環境教育の促進

SDGs や省エネ基準適合義務の対象拡大等があり、一級建築士試験における環境工学、建築設備計画の分野の知識とその応用力の要求が強化されているが、この分野は難解な内容も多く、授業は難航しやすいので、専門の非常勤講師と専任職員が連携して学びやすい授業をデザインしていくことに努める。

(b) BIM・AI教育の推進

建築学科においては、BIMソフトの基本操作を確実に習得することを継続的な目標として掲げ、教育全体の質の向上に努めるとともに、引き続きBIM検定試験対策講座を実施する。また、昨今のAI技術の進展を踏まえ、その利便性だけでなく活用上の留意点や人間の判断の重要性についても理解を深め、AIを主体的に活用する姿勢を育成するため、令和8年度より各学科1年生を対象とした特別授業を展開する。これにより、AIリテラシー教育および実践的な活用指導の推進を図っていく方針である。

(c) 資格取得の推進

建築系においては、これまで選択授業（発展科目）として実施してきた資格試験対策について、前期・後期の区分を廃止し、資格ごとに柔軟なスケジュールを設定できる講座申込制へ完全移行する。これにより、最短期間での集中サポートが可能となる体制を整えている。学生の学習意欲および学習成果のさらなる向上を目的として、学生の学習状況や試験対策に関する支援について担当講師と専任講師が一層連携を強化

し、資格取得率の向上に取り組んでいく方針である。加えて、受講申込前の早期段階から、資格取得の重要性や将来的な活用方法について専任教員が適切に働きかけ、意識醸成を図っていく。

国際系においては、日本語能力に関する資格にとどまらず、ビジネス日本語検定、ビジネスマナー検定、情報処理検定等の就職に有利となる資格取得を推奨する。

(d) 人間涵養教育の推進

より多くの学生の人間としての成長につながるコミュニケーション、目標設定、将来設計のためのチャレンジ等を職員が支援しやすい環境の充実を目指す。また、その核である新入生オリエンテーションとしての軽井沢研修は、昨年度同様2泊3日の日程とし、適切な期間と内容を行っていると考ええる。事前研修およびフォローアップ研修の内容をブラッシュアップし、より効果的かつ効率的なプログラムへと充実させていく方針である。

国際系においては、「自主、自覚、自律」を基本方針とした教育を推進し、日本社会で生き抜ける自立した人材の育成に努める。

(e) 建築士試験の受験要件緩和への対応

令和6年度は、一級・二級建築士の同時受験に挑戦した学生がいたが、学科試験は合格したものの製図試験は合格に至らなかった。令和7年度は受験者無しであった。これらの結果を踏まえ、製図指導を含めた指導体制の在り方、また一級・二級同時受験のメリットについて、あらためて丁寧に周知していく必要がある。まずは二級建築士を確実に取得した上で一級建築士試験に備えていくという方向性を十分に示し、一級建築士受験支援体制についても取り組んでいく方針を引き続き検討していきたい。

(f) 施設・設備の充実化

老朽化あるいは劣化の著しい施設の改修、及び設備の整備・充実化を適切に進める。

(ウ) 業務の効率の向上

(a) 業務の合理化

人員不足（担任不足）の解消には時間を要するため、業務の合理化は喫緊の課題です。今年度は、職員の能力を最大限に活かし、不合理な業務の発見と改善を目指す。

そのため、職員一人ひとりが業務の意義を理解し、柔軟な役割分担と信頼関係のもと、自律的かつ迅速に行動できるよう努める。

また、労務や経理・給与明細のシステム導入による電子化を組織全体に浸透させ、さらなる業務効率化を実現する。

(b) 業務内容の点検・見直しの促進

昨年度から今年度にかけて、次世代を担う中堅職員を計画的に登用したことを機に、業務内容の点検・見直しを推進する。過去の慣例にとらわれず、教職員が意見交換しやすい環境づくりを心掛けるとともに、課題解決に向けた新しいアイデアを積極的に試行できる体制を構築する。

(c) 学内情報管理システムの活用

学内情報管理システムにおいて、入学から卒業までの学生データを一元化することで、部署の壁を越えた情報共有をスムーズにすることが可能となった。

今後も同システムの改善と調整を行い、業務の属人化を抑制し、更なる活用を推進する。

(d) Google for Education の活用

Google for Education を本格的に導入、活用した結果、各授業における配布物、提出物をデータ上で管理できるため、欠席者への配布漏れ、回収漏れも軽減され、非常の勤講師が自宅でも作品を確認できるので、採点もスムーズにできている上、提出遅延者の管理等、担任の業務も軽減された。さらに活用度を高めて授業の質向上につなげていく。

(e) 職員間の相互扶助の促進

職員同士の対話を大切にし、業務の背景や展望に対する相互理解に努める。特に各部署のマネージメントにおいては連絡と報告だけではなく、ボトムアップによる合意形成を目的とする会議をできるだけ設け、当事者意識と相互理解を深めることで相互扶助を促進する。

また、建築系教員室と進路・広報室とを隣接させ、入学から教育、卒業まで一貫した職員間の一体感を今まで以上に構築する。

(エ) 職場環境の改善

(a) 挨拶の励行

職員同士はもちろん、全職員がすべての学生に対して挨拶を徹底する。また、来客時などの声掛けも励行し、明るい学校・職場づくりに努める。良好なコミュニケーションは「笑顔の挨拶」から始まることを意識し、実践を継続する。

(b) マナーの向上

服装・言動において教職員としての品位を保ち、常に敬意を払った丁寧な対応を心掛ける。とりわけ学生への発言に関しては、現代の倫理観や社会規範から逸脱しないよう、講師と密に連携して情報収集に努め、適宜注意喚起を行う。

また、学生への連絡や指導で通信手段（電話・FAX・メール・SNS等）を用い

る際には、言葉遣いやマナー、時間帯への配慮を徹底する。

(c) 校内美化と整理・整頓の推進

良質な学習環境を維持するとともに、オープンキャンパスや貸会場等で本校学生以外も校舎を利用するため、日頃から校舎・教室の物品等の整理・整頓や美化を心掛け、良質な学習環境であることに努める。

また、教室には返却済みの作品や配布プリント等が放置されていることが多々あるため、Google for Education を用いて、オンライン上で伝達できることは極力紙配布をなくし、作品返却については、仮置き期間を設定する等して、定期的に教室がリセットされるようにする。

(d) 作品等の掲示・展示方法の改善

学生・留学生の作品展示をはじめ、資格試験の合格者やコンペの結果等については、早期に掲示するとともにSNSでも公表し、祝賀ムードを高める工夫を行う。また、建築系および国際系の特徴や本校らしさを感じられる、心和らぐ雰囲気醸成に努める。さらに、展示物の傷みや汚れについても定期的な確認を行い、適切なメンテナンスに配慮する。

(e) 職員間の情報の共有

職員間の相互扶助の促進を実践するため、部署ごとのミーティングを定期的に行う。また、休学・退学防止策の検討を意識し、学生・留学生に関する情報や職員が個別に抱える課題等の共有を図り、風通しのよい職場環境の整備に努める。

さらに、互いに謙虚な姿勢と学び合う意識、相互扶助の精神を持つとともに、全員が専門性を常に高める努力を怠ることなく、誰もが人材育成を担うという意識を持って業務に取り組む。

(f) 設備や備品の管理と整備

授業等で使用するノートパソコンやプロジェクター等の機器や備品の適切な管理と定期的な整備を行い、学習環境を継続的に整える。

(オ) 附帯教育事業の充実化

(a) 新規プログラムの研究・開発

地域や社会の課題、産業界、関係団体等のニーズを適切に把握し、新たな生涯教育を研究・開発する。

(b) 産学連携プログラムの開発

求人やインターンシップを通じて企業等から積極的に産学連携に係わる情報を収集し、ニーズの高い魅力あるプログラムとして、業界の情報や知見が集積している本校

の強みを活かした、業界向けのセミナー等を開発する。

将来は、業界の情報や研修の拠点として、広く活用してもらえることを目指す。

(c) 中央工学校生涯学習室等との連携強化

中央工学校生涯学習室等と連携し、新しい講座を開拓する。

(d) 外部機関等への教室の貸し出しの促進

日程や収容人数等が可能な限り、各種講習会や各種試験等への教室の貸し出しを積極的に行う。

(e) (学) 中央工学校 O S A K A 一級建築士事務所の目的

引き続き、建築設計に関する幅広い知見を有している本校が設計事務所として実務に携わることの意義を意識し、社会に貢献できる設計事務所となることを目指す。

これまでは物件がなく、業務がほぼ発生しなかったが、事務所に義務付けられている定期講習の受講は、教員の実務的な知識の更新に欠かせないものとなっている。

(カ) 非常勤講師との連携の促進

(a) 情報の共有化

現在使用中のクラウド型学内情報管理システムの見直しと検討を図る。

また、学生の出席管理システムにおいて、出欠閲覧を担当講師からの要望があれば、担任、または担当が一覧表を出力する方法で対応しているが、問題が発見しにくい点があるため、1 か月 1 度など定期的に学生本人にも自身の出席率を確認できるよう改善を図っているが、引き続き今後も検討する。

授業や学生指導においては、授業日誌を活用し、担当講師からの課題提出や出席状況、指導内容に関する情報を担任と共有し、問題の早期発見、早期解決に努める。

(b) 学校行事への参加の促進

卒業成果・制作発表会は、席数の都合上、原則として審査員、1 年生、卒業制作担当講師のみが会場で見学できる形としているが、令和 7 年度は一部の非常勤講師や卒業生、企業関係者にもご参加頂けたことで、会場全体が一層活気に満ちた発表会となった。また、審査員に建築・インテリア概論で講義いただいた外部講師をお招きし、外部の視点から作品評価をいただいたことで、新たな学びの機会を創出することができた。会場で見学していた 1 年生にとっても大きな刺激となり、非常に有意義な時間となったと考える。さらに、非常勤講師にとっても学生の成長や成果を実感しやすい行事となったと捉えている。今後は、外部の教育課程編成委員の方々をはじめとする関係者も積極的にお招きし、また引き続き関係企業様へ動画配信を続けるなど、より充実した行事として発表会の意義を明確に示していきたい。

また、『生きた建築ミュージアムフェスティバル』は、社会現象としての建築ツーリズムの盛況を好機として、多くの公開建築物を実際に体験することや本校の校舎について深く知ること等によって、建築物の評価基準や街と建築の関係等、これからの建築業界に求められる感性を磨く非常に重要な機会である。令和7年度も学生作品展覧会の同時開催により、学生間の共同活動が促進され、協調性を育む貴重な機会となった。この取り組みを継続的に行事として実施することは、非常勤講師の関心や理解の深化にもつながる。

その他、スポーツ大会は、学生レクリエーションではあるが、公平なルールで競い合うことで、体を動かして発散すること、仲間と楽しむことの輪に入ることだけでなく、真剣に参加する学生を増やすことができるので、物事に取り組む姿勢をも築くきっかけにできるようにしたい。

(c) 意見交換会の開催

職員と非常勤講師との意見交換会を適宜開催し、授業運営やインターンシップ、就職、広報活動等の改善につなげる。活発な意見交換を行うため、非常勤講師と職員が日常的に本音を言いやすい関係性の構築に努めた結果、コミュニケーションの量・質ともに向上が感じられるようになった。

しかしながら、意見交換会としては十分な開催に至らなかったため、今後は実施形式や開催時期を工夫し、より活発な意見交換の機会の確保に努める。

(d) 学科内方針の共有

引き続き、学科内において授業の到達目標を具体的に設定するとともに、科目間の連携および引き継ぎについては学科担当及び担任が中心となって調整・管理を行う。

さらに、学生への指導方針を明確に定め、職員と非常勤講師の間で共有することで、円滑な対応が行える体制を整える。

また、非常勤講師間で意見や考え方に相違が生じた場合においても、担任・主任・教育室長が中心となり、明確な方針を示していく。

(キ) 職業実践専門課程に係わる取り組みの推進

(a) 企業等と連携した実習・演習等の実施

建築系では、企業等と連携したプロジェクトや授業を実施しているが、業界の変化に即した専門性の充実および高度化を図るため、新たな企業と連携した実習・演習内容の検討を行う。

(b) 企業等と連携した職員研修の実施

教員の指導力向上を図るため、授業におけるファシリテーション技術の習得を目的

とした研修や、専門分野に関する中・長期的な研修の実施について検討する。

また、関係する専門分野の企業等と連携し、見学を中心とした研修を継続的に実施していく。

(c) 教育課程編成委員会等の意見の活用

教育課程編成委員会における意見・提案等を踏まえ、授業内容やカリキュラムの見直しを行うとともに、社会のニーズに即した教育や教員の資質向上にも役立てる。

(d) 学校関係者評価書の作成・公開

学校関係者評価は、あらかじめ職員が作成した学校自己評価に基づいて定期的に行っており、学校関係者評価書をホームページで公開している。

また、令和7年度からの学校評価ガイドラインの改定、及び令和8年度からの学校教育法の改定により、令和8年度から学校関係者評価の項目や評価内容が変更されたため、改定に沿った学校評価書の作成に努める。

これらのことを踏まえ、学校関係者評価書の作成を通じて問題点や課題を抽出し、学校運営の改善と発展を目指すとともに、教育の質の保証を図る。

(e) 中央工学校（東京校）との連携と情報交換

東京校の学校関係者評価委員会や教育課程編成委員会、第三者評価委員会の実施内容や実施項目について、担当者との連携や情報交換を行い、より充実した委員会になるよう改善していく。

(ク) 建築系の取り組み

(a) 学生指導

多様な個性や要望を持って入学してくる学生を、新しい社会で活躍できる人材へと育成するため、知識や技術の習得にとどまらず、豊かな創造性や新たなことに挑戦する勇気と自信を育むことを重視する。そのため、教員自身が従来の常識を見直し、学生一人ひとりの強みを伸ばす指導を心がける。研修や、校外学習などを効果的に実施し、実施後のフィードバックや成果の検証も行う。行事などを通して、運営や組織づくりを、仲間と実体験し成長を促す指導に力を入れる。

(b) 授業内容と、授業構成を意識した授業デザイン

アルバイトなどにより、学生は自宅学習習慣があまりなく、授業間の関連性や連続性も意識せず授業を受けていることも多いため、内容の理解が深まりにくい傾向にある。また、理解を助け、深めるためには、視覚的な教材や、体験、ディスカッションなどがなければならないという状況が顕著になっている。

そのため、担任は、初回授業ではイントロダクションを挿入し、日々のナビゲー

ションが重要となっている。

以上を意識しながら、90分の授業時間中をどう使い、注意を引き付け続けるかも計画して授業に臨む必要がある。科目や教員によるばらつきをできる限り軽減するために、教職員間で配布プリントや、進捗、成果物の共有などをさらに密に行い、定期的に、気軽にミーティングを行い、フォロー体制の強化に努めることで、学生の学びを効率的により深いものにしていく。

(ケ) 国際系の取り組み

(a) 入学者数の安定的確保

将来の目標が明確で、出席率、経費支弁状況がしっかりしている留学生を確保する。

(b) 各学科の特色の鮮明化

国際コミュニケーション科においては、内部進学、外部進学、就職の3つの進路に対応し、学生を希望する進路へと導く。少人数制という利点を生かし、進学希望者には希望校の小論文や面接指導を過去の入試データをもとに分析し、対策を行う。就職希望者には「技術・人文知識・国際業務」「特定技能」のどちらの就職でもきめ細かくサポートし、一人ひとりが目標に到達できるよう支援を行う。

ブリッジエンジニア科では、就職先となる企業のニーズを踏まえたカリキュラムによる実践的な教育を展開し、様々な業種でのインターンシップを通じ、本科の3つの学び「建設・建築」・「製造」・「IT」の中から自分に合う分野を発見させ、就職後のミスマッチが起きないようにする。1年次より、授業内で企業招集、会社説明会等を行い、早期にインターンシップ参加を促し、就職活動への意識形成を行う。

(c) 実践的日本語力の取得の強化

日本語能力試験の対策とともに、ビジネス日本語やプレゼン力を身につけ、日本語の運用力を高める。また、専門科目での理解不足がおきないように、専門用語の日本語フォローに入る。

(2) 学習指導

(ア) 重点事項

(a) 学校行事及び研修内容の見直し

軽井沢合宿研修においては、新入生オリエンテーションとして、学生生活のスタートにあたって様々な意識付けができる形が確立したかと思われるので、しばらくはこの形で実施していくこととする。さらに、引率者の業務と運営の合理化を進める。

また、卒業成果・制作発表会については、制作工程における指導やスケジュール管

理などについては、学生主体で行うよう指導方法を一層改善することにも目を向ける。

国際系においては、学校とアルバイトの往復だけになりがちな留学生に、さまざまな体験を授業内で経験できるように、課外活動や校外学習を取り入れる。それらの活動を通して団体行動の大切さやクラスの団結力を培い、異文化への興味、社会への関心が広がるよう、また2年間という限られた学生生活の中で友人との思いで作りの場となるような機会を提供する。

(b) 学生ラウンジの活用

学生ラウンジを学生・留学生や職員の食事のほか、学生・留学生間及び学生・留学生・職員・非常勤講師間の交流、クラブ活動、セミナー、作品展示、地域開放の場等としての活用を一層進める。

(c) 中央工学校グループ校との連携の強化

建築系においては、国内建築研修において東京校の訪問し、中央工学校の充実した新校舎設備を使った授業の実施を検討したいが、今年度より日程を縮小するため日程的にも難しいため、他の形で学生全員が東京校を訪問できるような研修等を模索する。

また、二級建築士受験のためのクラスを東京、大阪共通で設置するにあたり、共有可能なことは非常に多くあり、それを他校にはない強みとして確立していきたい。

(d) 教育成果の外部への発信の推進

広報職員と連携し、ホームページや学校アプリ等の各種広報媒体を通じて、授業をはじめ、コンペの成果、学校行事やクラブ活動の様子など、日頃の教育成果を引き続き積極的に外部へ発信する。また、その反応を分析し、今後の広報活動や教育内容の改善につなげていく。

卒業成果・制作発表会における表彰作品については、優秀作品集としてパンフレットにまとめているが、学生の励みとなるとともに外部への有効なアピールにもなっていることから、内容の充実を図り、さらなる発展を目指す。

さらに、学生・留学生のアイデアやデザイン成果については、学生個人の著作権を尊重しつつ、広く社会に活用される可能性を視野に入れ、製品化や特許・意匠登録等の権利取得について引き続き検討していく。

(a) 学校行事及び研修内容の見直し

(イ) 建築系

(a) 目標

◇『厳しい実務教育』、『人間涵養教育』

(b) 基本方針

- (i) 各学科の特色化の推進
- (ii) B I M・A I 教育及び環境教育の充実
- (iii) 明確かつ適切な目標設定による授業の理解度・習熟度の向上
- (iv) 内部進学を踏まえた研究科の目的・カリキュラムの見直し
- (v) 遅刻・早退・欠席者及び休・退学者の削減
- (vi) プレゼンテーション能力の向上
- (vii) 各種コンペティション参加の促進
- (viii) 資格取得の促進

(c) 具体的方策

(i) 各学科の特色化の推進

◇研究科

二級建築士建築士試験の合格率の向上及び後期の学習内容の充実を図る。

一級建築士を同時に受験する学生への支援として、該当者が4名程度までは以下の体制を整える。

[学科] 日建学院アカデミックパッカー級用教材（自己負担）を自習させ、質問時間に質問対応

[製図] 全10回弱点強化講習会（別料金）を開講

◇建築学科

建築設計演習Ⅰ（1年次必修）のカリキュラム変更における2年次の成果（卒業制作）を検証し、その内容の充実を図る。

◇住宅デザイン科

卒業制作において、戸建て住宅の設計、街づくり、古民家などの分野が毎年多く出てくるが、専門の講師を招聘し、コースとして充実させる方向も視野にいて、今後の展望を検討する。学科の特色を明確化する。

◇インテリアデザイン科

引き続き、デザイン教育の充実を図り、学生の習熟度向上によって、デザイナーとして独立、自営を目指す経営戦略を身につける教育を強化する。

また、1年次に資格とコンペティション、2年次にコンペティション、3年次に建築士という道筋を理想とし、確かな技術・知識の習得による、建築士受験、研究科入学への意欲の醸成をも促していく。

(ii) B I M・A I 教育及び環境教育の充実

①B I M関連ソフト（専門科目・演習科目）を使用する授業の増加を図る。

- ②A I リテラシー教育および実践的な活用指導の推進を図る。
- ③環境問題の理解とSDGsの概念の浸透を意識する。
- (iii) 明確かつ適切な目標設定による授業の理解度・習熟度の向上
 - ①具体的な目標をシラバスに明記し、担任、担当講師は初回授業にて、授業のイントロダクションを十分に行う。
- (iv) 一級建築士受験を見据えた研究科のカリキュラムの見直しの検討
 - ①一級建築士受験を意識させる機会を増やし、一級の内容にも触れるようにする。
 - ②研究科後期授業をさらに充実させる。
- (v) 遅刻・早退・欠席者及び休・退学者の削減
 - 学生本人が、自己管理しやすい工夫と指導に努める。
- (vi) プレゼンテーション能力の向上
 - 日頃の作品発表においては、伝えたいことを時間内で魅力的に伝えるための作品情報の編集能力と表現方法を養うための仕組みを構築する。
- (vii) 各種コンペティション参加の促進
 - 同時期に実施されている授業との連携等も考慮し、学生の意欲の継続を支援する必要がある。無理なスケジュール等を見直し、環境にも工夫することで、結果につなげ、より一層のレベル向上を図る。
- (viii) 資格取得の促進
 - 自分にとって必要で、頑張れば取得できる資格に自主的に挑戦させるためのモチベーションや意識を高めるため、資格対策授業を講座として実施するし、引き続き成果を検証していく。

(ウ) 国際系

- (a) 目標
 - ◇学生一人ひとりが希望する進路を見つけ、実現できる力を身につける。
- (b) 基本方針
 - (i) 特色のあるカリキュラム編成
 - (ii) 授業の理解度・習熟度の向上
 - (iii) 地域活動及び異文化交流・社会貢献の推進
 - (iv) 課外授業の充実による他校との差別化
 - (v) 生活指導の徹底
- (c) 具体的方策
 - (i) 特色あるカリキュラムの編成及び授業理解度・習熟度の向上

◇国際コミュニケーション科

①目標到達に向けた個別指導

②情報提供（大学、専門学校、就職〔技人国〕〔特定技能〕）

③進学後に求められるプレゼンテーション力

(b) ブリッジエンジニア科

①専門科目の習熟度を高めるための専門用語の日本語フォローアップ

②建設・建築・機械・ITの3分野の学習による幅広い業種に対応できる基礎知識の修得

③母国と日本の架け橋となるための語学力、技術力、知識力、コミュニケーション力の養成

(ii) 地域活動・社会貢献・課外活動の充実

アルバイトと学校の往復だけになりがちな留学生にとって、クラスメイトとの研修や校外活動は団体行動を学ぶ上でよい機会となり、また、よい思い出づくりの場となる。クラス内の団結が高まるという利点や教員との距離が近くなることで、進学や就職指導への効果を上げる。

緑地公園の清掃という社会貢献活動を通して、地域との連携や学生の道德心を育む。

(iii) 在籍管理とマナーの育成

日頃から一人ひとりの行動に留意し、出席率の95%維持に努めるとともに、学習態度や生活態度の変化を見逃さないよう、職員全員が情報共有し、早期発見、早期指導を行う。また、社会に出た時に恥ずかしくないよう、日頃からマナーを意識させ、挨拶、服装、言葉遣い、整理・整頓等に留意する。

(3) 学生・留学生指導

(ア) 個別指導

- (a) 日頃から学生をよく観察し、悩みや問題点を持つ学生・留学生の早期発見に努め、発見した場合は、担任だけでなく、複数の職員での支援体制を構築し、休・退学を防止する。
- (b) 日頃から学生の就学状況を保護者と共有できるよう、保護者とのコミュニケーションスキルを高める。
- (c) 教育懇談会等をとおして、家庭の実態を把握し、保護者との信頼関係を築く。
- (d) 学生生活や留学生生活をとおして、規律ある生活態度や社会人として必要なマナーを身に付けさせるにあたり、職員、学校関係者、学校の学生対応についても、常に、

良心的で、誠実を心がけ、学生・留学生に見られていることを忘れないようにする。

(イ) 集団指導

- (a) 学校内での学習や生活だけでなく、地域活動等にも積極的に参加を促し、立場や背景の異なる他者との良好な関係を築き、秩序ある行動の重要性を指導する。
- (b) さまざまな学校行事や、グループ課題において、自分の考えや意見を伝えながら、他者と協力して、一人ではできないことをチームで達成する経験から、対話の重要性や組織の一員としての動きを理解させる。
- (c) A S Hや入学時のガイダンス等では、異なる背景や文化への理解を促進させるように留意する。また、A S H、課外学習の時間は、2年間を通して、職業観や課題対策だけでなく、視野が広がるような取り組みを企画し、実施する。
- (d) 引き続き、未成年者の喫煙指導は徹底し、公共のマナーに対する意識の向上を図る。

(ウ) 交通安全教育

- (a) 通学途上における交通マナーを向上させ、交通事故を防止する。
- (b) 自己及び他者の生命の大切さを自覚させ、無謀な運転を防止する。
- (c) 留学生に対し、日本国内の交通マナーに関する理解の徹底を図る。

(エ) 図書室の利用指導

- (a) 専門図書の充実を図るとともに、幅広い教養を身に付けるための一般図書の整備を進める。
- (b) 学生・留学生の読書傾向を把握するための調査を行い、ニーズの高い図書の拡充に努める。
- (c) 学生・留学生が親しみやすく、落ち着いて学習できる環境となるよう、図書スペースの雰囲気づくりに配慮する。
- (d) 書籍に加え、W E B等も活用し、常に新しい情報を閲覧できる環境の整備を図る。

(4) 進路指導の重点

(ア) 重点事項

キャリア教育の実践等をとおして、すべての学生・留学生が夢や希望を持ち、自己が求める企業に就職活動の時期を逸することなく、早期に就職できるようにする。

このほか、学生・留学生の適性、興味・関心等を踏まえ、自らの職業観・勤労観を培い、社会人として必要な資質能力を形成していくことができるようにするため、経済産業省が職場や地域社会で暮らしていく必要な力として提唱している「社会人基礎力」、すなわち、「前に踏み出す力」、「考え抜く力」、「チームで働く力」を身に付けさせる。

また、就職活動の早期化に伴う求人動向および学生への影響を的確に把握するとともに、必要な情報収集を行い、適切な進路指導に努める。

(イ) 建築系

(a) 目標

学生・留学生在が自己を正しく理解し、自らの意志と責任で進路を選択する能力を育成する。

(b) 基本方針

- (i) 自己実現に向けた自主性の育成
- (ii) 計画的な進路ガイダンス及び進路指導の推進（学級担任との連携強化）
- (iii) 就職活動の早期化の促進
- (iv) 就職に繋がる効果的なインターンシップの推奨
- (v) 研究科への内部進学への促進

(c) 具体的方策

(i) 学級担任及び職員間の情報共有の徹底

各学科やクラス、教科等との連携を密にし、入学から卒業までを見通した進路指導計画を立案するとともに、学生・留学生一人ひとりが自らの考えや行動に基づいて自己実現を図る力の育成に努める。

また、学級担任と連携し、学生・留学生の職業観・勤労観の育成を図るとともに、自己分析や企業研究、学校求人や自己開拓による就職活動の方法・手段について、計画的に指導する。

さらに、履歴書の作成方法や採用選考に関する指導、進路相談等を個別に行い、就職内定に向けたきめ細かなサポートを行う。

(ii) 就職活動の早期化に即した計画的な進路ガイダンスの実践（進路指導の充実化）

求人情報の公開の早期化を図るため、キャリアマップを通じて8月に求人依頼を行うとともに、求人の受付を随時行い、速やかに公開できる体制を整える。あわせて、進路ガイダンスの充実を図り、就職支援サイトが主催する就職セミナーへの参加方法や各種イベントの告知をきめ細かく行うことで、学生の就職活動に対する意識の向上と早期化を促す。

また、希望職種と実務とのミスマッチによる早期離職を防止するとともに、学生・留学生の希望や適性、能力に応じた企業等への採用内定を促進するため、インターンシップへの参加を積極的に推奨する。

(iii) インターネットの活用への推進

学生一人ひとりが自ら積極的に企業研究や情報収集、求人応募エントリー等を行えるようにするため、インターネットを利用した就職支援サイト（マイナビ・キャリアタス等）の活用について、進路ガイダンス等をとおして指導する。

(iv) オンライン業界説明会及び合同企業説明会の開催（主催：本校）

就職活動の一環として、5月に本校主催の合同企業説明会を開催する。採用実績があり、インターンシップや求人を受け付けている建築、住宅、インテリア、B I M等の分野の企業を招聘し、人事担当者や卒業生による業務内容や雇用条件等の説明を通して、学生が自らの志向に合った企業への応募や業務への従事につながるよう支援する。

また、就職活動の時期を逸することなく進路決定ができるよう、1学年の3月には本校とキャリアマップが合同で業界説明会をオンラインにて実施する。これにより、学生の業界理解を深めるとともに、早期からの就職活動への意識づけを図る。

(v) 研究科への内部進学への促進

進学ガイダンスや個人面談を計画的にきめ細かく行い、教員室と連携し、研究科への内部進学を促進する。

(ウ) 国際系

(a) 目標

留学生が自己を正しく理解し、自らの意志と責任で進路を選択する力を育成する。

(b) 基本方針

(i) 手厚い進路指導による学生の希望進路実現への支援

(ii) 希望進路の早期把握と実現に向けた計画的な進路指導の推進

(c) 具体的方策

(i) 手厚い進路指導による学生の高い満足度と信頼度の獲得

留学生一人ひとりが自らの考えや行動等に基づいて、自己実現を果たすことができるよう学生の職業観・勤労観・将来像を育成するとともに、大学や日本企業が留学生に求める人物像を分析し、学校選び、就職活動の方法・手段を計画的かつきめ細かくアドバイスし、希望進路へと導く。

(ii) 希望進路の把握と実現に向けた活動の強化

1年次より定期的な進路調査・面談を実施することで、学生と職員の意志疎通をしっかりと図り、受験や入社試験の準備を万全にし、本番に自信をもって臨めるよう指導する。

3 学級担任

課程	系	区別	学 科 名	1 年	2 年
工業専門課程	建築系	昼間	研究科	平上 秀明	—
			建築学科	北村 昇大朗	篠崎 潤一
			住宅デザイン科	平上 秀明	豊田 昌代
			インテリアデザイン科	福島 貴子	太田 育子
文化・教養課程	国際系	昼間	ブリッジエンジニア科	金村 優美	九野坂 仁
		昼間	国際コミュニケーション科	森元 早苗	—

4 教務室分掌構成員

部 門	分 掌	担 当 者
事務部門	総務・労務	檜崎 悟志、上本 佳直、尾杉 貴大、 山下 幸代、北野 裕子
	経理	檜崎 悟志、上本 佳直、尾杉 貴大、嶋田 享子
	管財	檜崎 悟志、上本 佳直、尾杉 貴大
教育部門	教育	檜崎 悟志、上本 佳直、尾杉 貴大、北野 裕子
	教務	檜崎 悟志、上本 佳直、尾杉 貴大、 山下 幸代、北野 裕子、嶋田享子
	生涯学習	檜崎 悟志、上本 佳直、尾杉 貴大、山下 幸代

5 建築系広報・進路部門分掌構成員

部 門	分 掌	担 当 者
広報・進路部門	広報	中島 征治、諸岡 邦行、清本 真沙実、藤谷 昌崇、藤井 紫真
	出願	中島 征治、諸岡 邦行、清本 真沙実、藤谷 昌崇、藤井 紫真
	受付	中島 征治、諸岡 邦行、清本 真沙実、藤谷 昌崇、藤井 紫真
	進路指導	中島 征治、河野 美晴、溝口 有里、岡田 ひろみ
	図書	中島 征治、河野 美晴、溝口 有里、岡田 ひろみ

6 国際系広報・進路部門分掌構成員

部 門	分 掌	担 当 者
広報・進路部門	広報	金村 優美、栗本 真里、九野坂 仁、十場 幸子
	出願	金村 優美、栗本 真里
	受付	金村 優美、栗本 真里、十場 幸子
	進路指導	金村 優美、栗本 真里、九野坂 仁、十場 幸子
	図書	金村 優美、十場 幸子

7 行事予定表

◇前期

4 月		5 月		6 月		7 月		8 月		9 月	
日 曜	日 曜	日 曜	日 曜	日 曜	日 曜	日 曜	日 曜	日 曜	日 曜	日 曜	日 曜
1 水	職員全体会議	1 金	国際系課外研修（全学科学年）新入生歓迎会	1 月	AO入試エントリー開始	1 水	一般休業日	1 土	建築系オープンキャンパス（13） 国際系オープンキャンパス（8） AO入試選考（2）、国際系一般入試（1）	1 火	夏季休暇後授業開始（研究科以外） AO入試入学願書受付開始
2 木		2 土	一般休業日	2 火		2 木		2 日		2 水	
3 金		3 日	憲法記念日	3 水		3 金		3 月	国際系夏季文化体験（全学科学年）	3 木	
4 土	一般休業日	4 月	授業日（研究科） AO入試説明会（1）	4 木		4 土	一般休業日	4 火	夏期職員研修会	4 金	
5 日	建築系オープンキャンパス（1）	5 火	こどもの日	5 金		5 日	建築系オープンキャンパス（9） AO入試説明会（5）、日本語能力試験（第1回）	5 水		5 土	一般休業日
6 月	教職員会議	6 水	授業日（研究科） AO入試説明会（2）	6 土	一般休業日	6 月		6 木	学校関係者評価委員会	6 日	建築系オープンキャンパス（16）、AO入試説明会（7） 国際系オープンキャンパス（12）、国際系一般入試（2）
7 火	受験ガイダンス（研究科）	7 木		7 日	建築系オープンキャンパス（7） 国際系オープンキャンパス（3）	7 火		7 金	夏季休暇前授業終了（研究科）	7 月	
8 水	入学式	8 金	合同企業説明会（建築系）	8 月		8 水		8 土	AO入試説明会（6）	8 火	前期追試験受験者発表
9 木	ガイダンス（研究科・建築系2年・国際系2年） 学生・職員健康診断	9 土	建築系オープンキャンパス（4） 国際系オープンキャンパス（1）	9 火	国際系スポーツDAY（2年）	9 木		9 日		9 水	前期追試験開始（9/14迄）
10 金	ガイダンス（建築系1年・国際系1年）	10 日		10 水		10 金		10 月	一般休業日	10 木	
11 土	一般休業日	11 月		11 木		11 土	一般休業日	11 火	山の日	11 金	
12 日		12 火		12 金		12 日	建築系オープンキャンパス（10） 国際系オープンキャンパス（5）	12 水	一般休業日	12 土	一般休業日
13 月	前期授業開始	13 水	消防訓練	13 土	一般休業日	13 月		13 木	建築系オープンキャンパス（17） 国際系オープンキャンパス（13） 二級建築士（設計製図の試験）	13 日	出動日
14 火		14 木		14 日	AO入試説明会（4）	14 火		14 金	一般休業日	14 月	
15 水		15 金		15 月		15 水		15 土	一般休業日	15 火	前期追試験結果発表
16 木		16 土	一般休業日	16 火	国際系スポーツDAY（全学科1年）	16 木		16 日		16 水	
17 金		17 日	学校説明会 in 軽井沢（1）	17 水		17 金		17 月	夏季休暇後授業開始（研究科）	17 木	第1回教育課程編成委員会
18 土	建築系オープンキャンパス（2）	18 月		18 木		18 土	一般休業日	18 火	国際系オープンキャンパス（9）、（10）	18 金	
19 日		19 火		19 金		19 日		19 水		19 土	一般休業日
20 月		20 水		20 土	一般休業日	20 月	海の日	20 木		20 日	
21 火	軽井沢合宿研修（U1）（4/23迄）	21 木		21 日	建築系オープンキャンパス（8） 国際系オープンキャンパス（4） AO入試選考（1）、日本留学試験（第1回）	21 火		21 金	職員研修発表会	21 月	敬孝の日
22 水		22 金		22 月		22 水		22 土	建築系オープンキャンパス（14）	22 火	国民の休日
23 木	軽井沢合宿研修（A1・I1）（4/25迄）	23 土	一般休業日	23 火		23 木		23 日		23 水	秋分の日
24 金		24 日	AO入試説明会（3） 建築系オープンキャンパス（5） 国際系オープンキャンパス（2）	24 水		24 金		24 月		24 木	一般休業日
25 土	一般休業日	25 月		25 木		25 土	一般休業日	25 火		25 金	一般休業日
26 日	建築系オープンキャンパス（3）	26 火		26 金		26 日	建築系オープンキャンパス（12） 国際系オープンキャンパス（7）	26 水		26 土	出動日
27 月		27 水		27 土	一般休業日	27 月		27 木	前期定期試験開始（7/30迄）	27 日	
28 火		28 木		28 日		28 火		28 金	国際系オープンキャンパス（11）	28 月	
29 水	授業日（研究科）	29 金		29 月		29 水		29 土	一般休業日	29 火	前期成績会議
30 木		30 土	一般休業日	30 火	軽井沢研修所施設見学会（5/31迄）（新入職員研修）	30 木		30 日	建築系オープンキャンパス（15） AO入試選考（3）	30 水	前期授業終了
		31 日	建築系オープンキャンパス（6）			31 金		31 月			

※L…研究科 A…建築学科 U…住宅デザイン科 I…インテリアデザイン科 X…国際コミュニケーション科 Z…ブリッジエンジニア科

7行事予定表

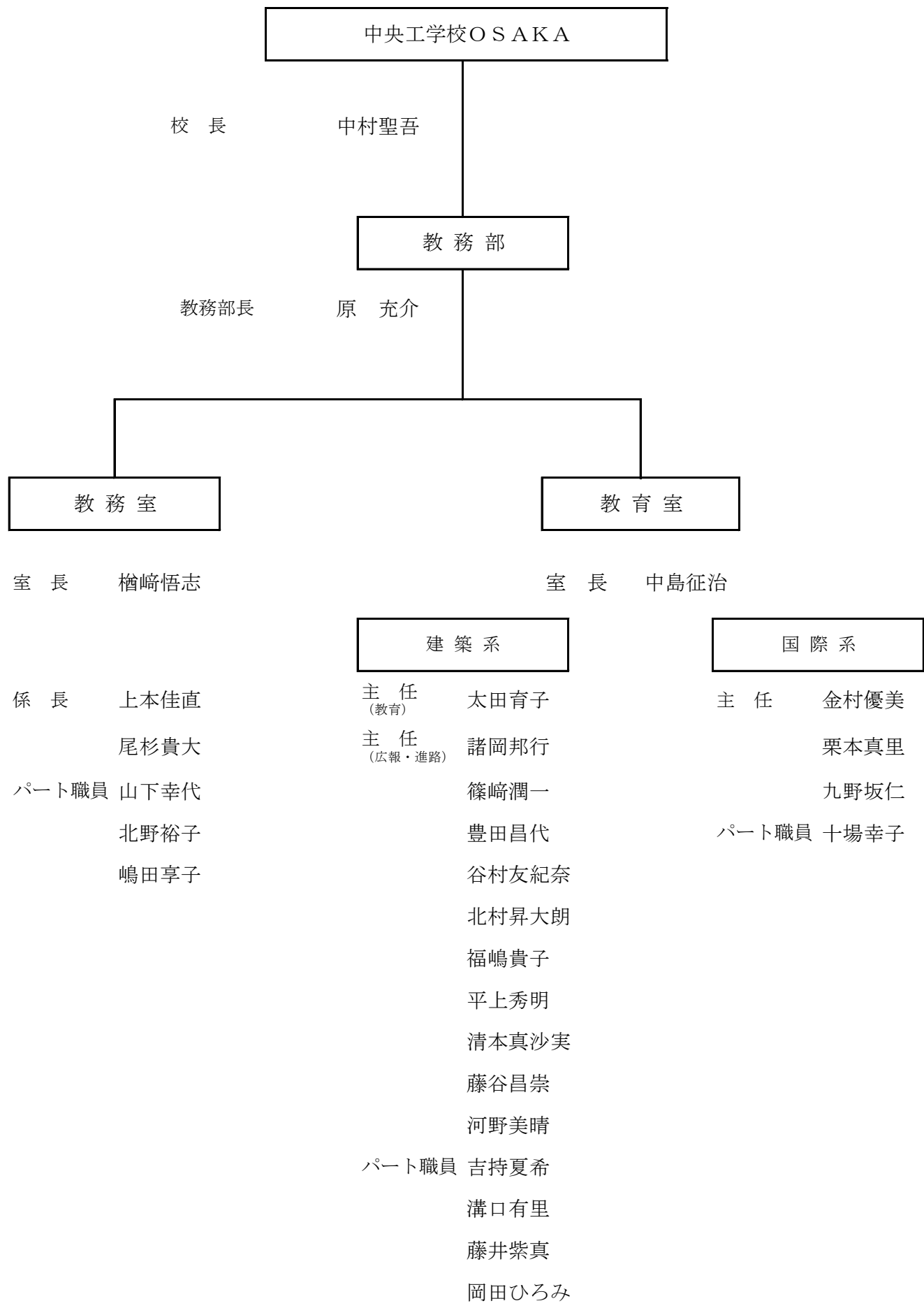
◇後期

10月			11月			12月			1月			2月			3月		
日 曜	日 曜	日 曜	日 曜	日 曜	日 曜	日 曜	日 曜	日 曜	日 曜	日 曜	日 曜	日 曜	日 曜	日 曜	日 曜	日 曜	日 曜
1 木		1 日				1 火		1 金	元日			1 月		1 月		卒業認定試験 (3/2迄)	
2 金		2 月			後期授業開始 (研究科)	2 水		2 土	一般休 暇日			2 火		2 火			
3 土	一般休 暇日	3 火	文化の日			3 木		3 日				3 水		3 水			
4 日		4 水			国内建築研修開始 (研究科) (11/6迄)	4 金		4 月	一般休 暇日			4 木		後期追試験受験者発表		オンライン合同企業説明会 (建築系)	
5 月		5 木				5 土	一般休 暇日	5 火	仕事始め			5 金		後期追試験開始 (2/10迄)		第2次卒業・進級成績審議会	
6 火		6 金				6 日		6 水				6 土	一般休 暇日	AO入学前教育		一般休 暇日	
7 水		7 土	一般休 暇日			7 月		7 木				7 日					
8 木		8 日			建築系オープンキャンパス (22)、AO入試書類審査 (4) 国際系オープンキャンパス (15)、国際系一般入試 (4) 建築系一般・推薦入試 (2)、日本新学試験 (第2回)	8 火		8 金	冬季休暇後授業開始			8 月				卒業決定発表 進級保留者発表	
9 金		9 月				9 水		9 土	一般休 暇日			9 火					
10 土	一般休 暇日	10 火				10 木		10 日				10 水				進級認定試験 (3/11迄)	
11 日		11 水				11 金		11 月	成人の日			11 木	建国記念の日	建築系オープンキャンパス (28) AO入試選考 (7) 建築系一般・推薦入試 (5)			
12 月	スポーツの日	12 木			国際系課外研修 (ブリッジエンジニア科1年) (11/13迄)	12 土	一般休 暇日	12 火				12 金		国際系卒業成果・制作発表会 [午前] 国際系卒業課外研修 [午後]		第2次進級成績審議会	
13 火		13 金				13 日		13 水				13 土	一般休 暇日			建築系オープンキャンパス (30) AO入試書類審査 (7) 建築系一般・推薦入試 (6)	
14 水		14 土	一般休 暇日			14 月		14 木				14 日					
15 木		15 日				15 火		15 金				15 月		後期追試験結果発表		進級発表	
16 金		16 月				16 水		16 土	一般休 暇日			16 火					
17 土	一般休 暇日	17 火				17 木		17 日				17 水		建築系卒業成果・制作発表会 (2/18迄)		卒業証書授与式	
18 日		18 水				18 金		18 月				18 木				一般休 暇日	
19 月		19 木			国際系一般入試 (6)	19 土	一般休 暇日	19 火				19 金		第2回教育課程編成委員会 卒業学年授業終了		一般休 暇日	
20 火		20 金			建築系スポーツ大会	20 日		20 水				20 土	一般休 暇日	建築系オープンキャンパス (29)		一般休 暇日	
21 水		21 土	一般休 暇日			21 月		21 木				21 日					
22 木		22 日				22 火		22 金				22 月		進級学年授業終了		春分の日	建築系オープンキャンパス (31)
23 金		23 月	勤労感謝の日			23 水		23 土	一般休 暇日			23 火	天皇誕生日				
24 土	出勤日	24 火				24 木		24 日				24 水		建築系オープンキャンパス (27) AO入試書類審査 (6)			
25 日	出勤日	25 水				25 金		25 月				25 木		卒業成績審議会			
26 月		26 木				26 土	一般休 暇日	26 火				26 金		卒業保留者発表			
27 火	一般休 暇日	27 金				27 日		27 水				27 土	一般休 暇日			一般休 暇日	
28 水		28 土	一般休 暇日		建築系オープンキャンパス (23)	28 月	一般休 暇日	28 木				28 日				建築系オープンキャンパス (32)	
29 木		29 日				29 火	一般休 暇日	29 金				29 月					
30 金		30 月				30 水	一般休 暇日	30 土	一般休 暇日			30 火					
31 土	一般休 暇日					31 木	一般休 暇日	31 日				31 水					

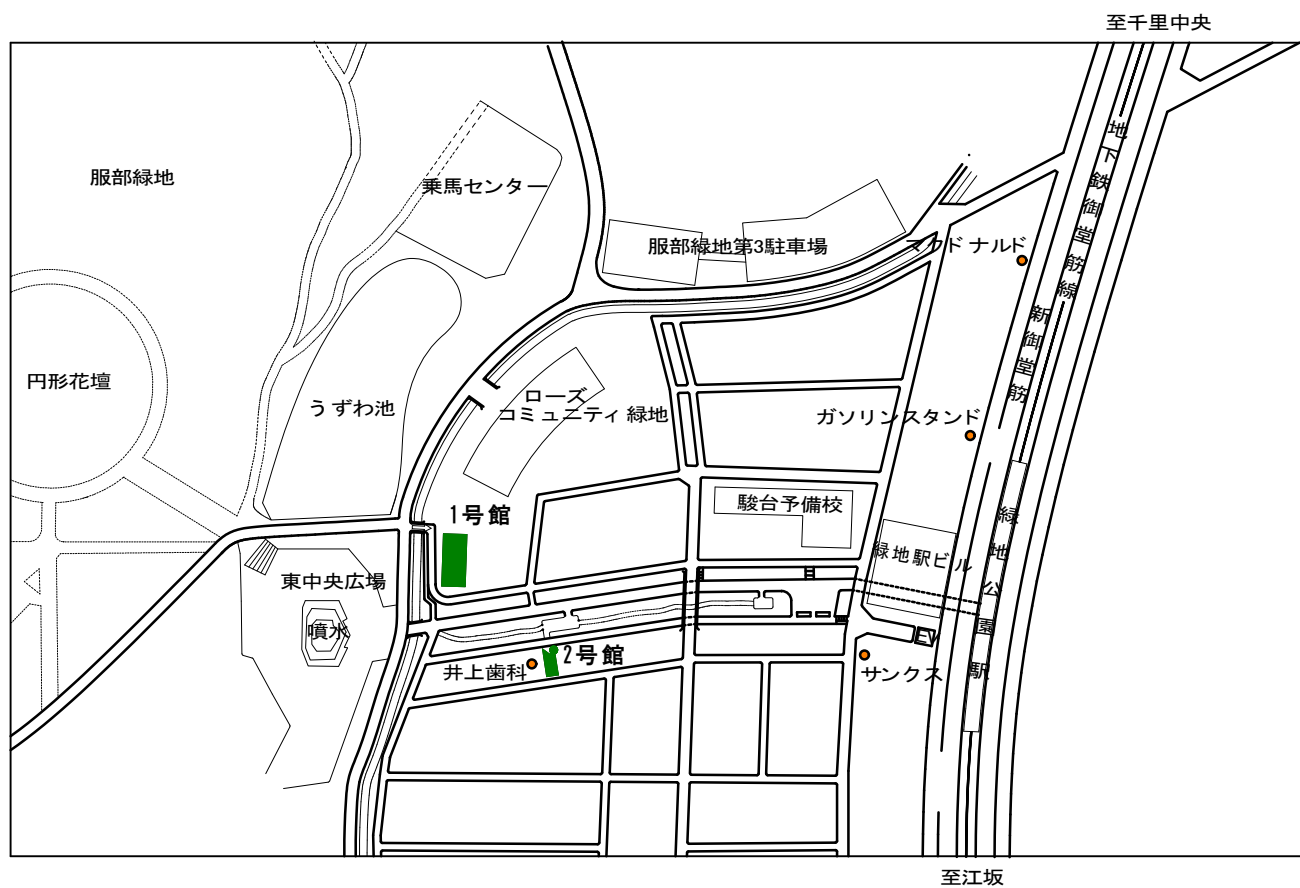
※L…研究科 A…建築学科 U…住宅デザイン科 I…インテリアデザイン科 X…国際コミュニケーション科 Z…ブリッジエンジニア科

参 考 資 料

8 職員組織表



9 付近見取図

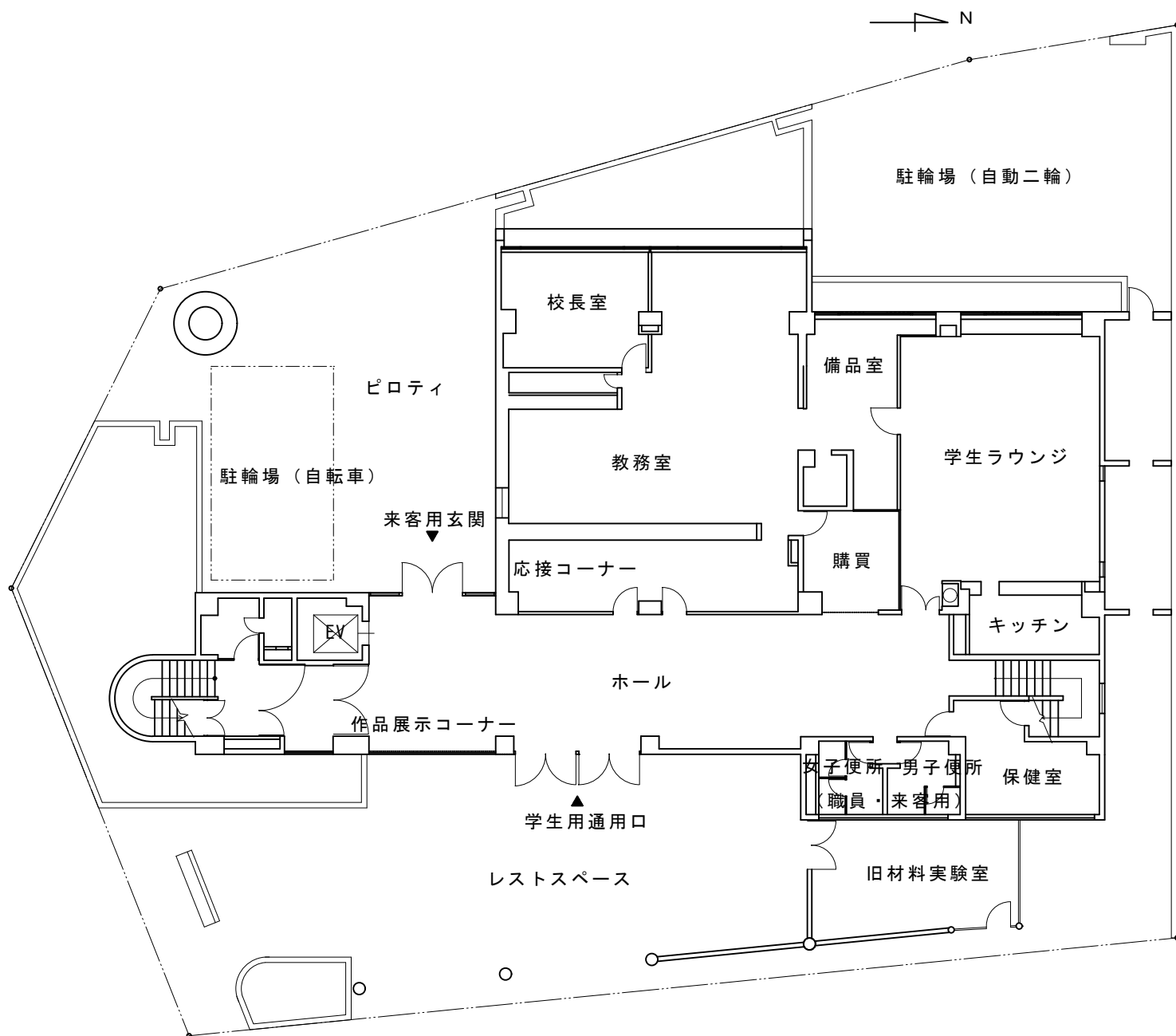


学校法人 中央工学校
中央工学校OSAKA

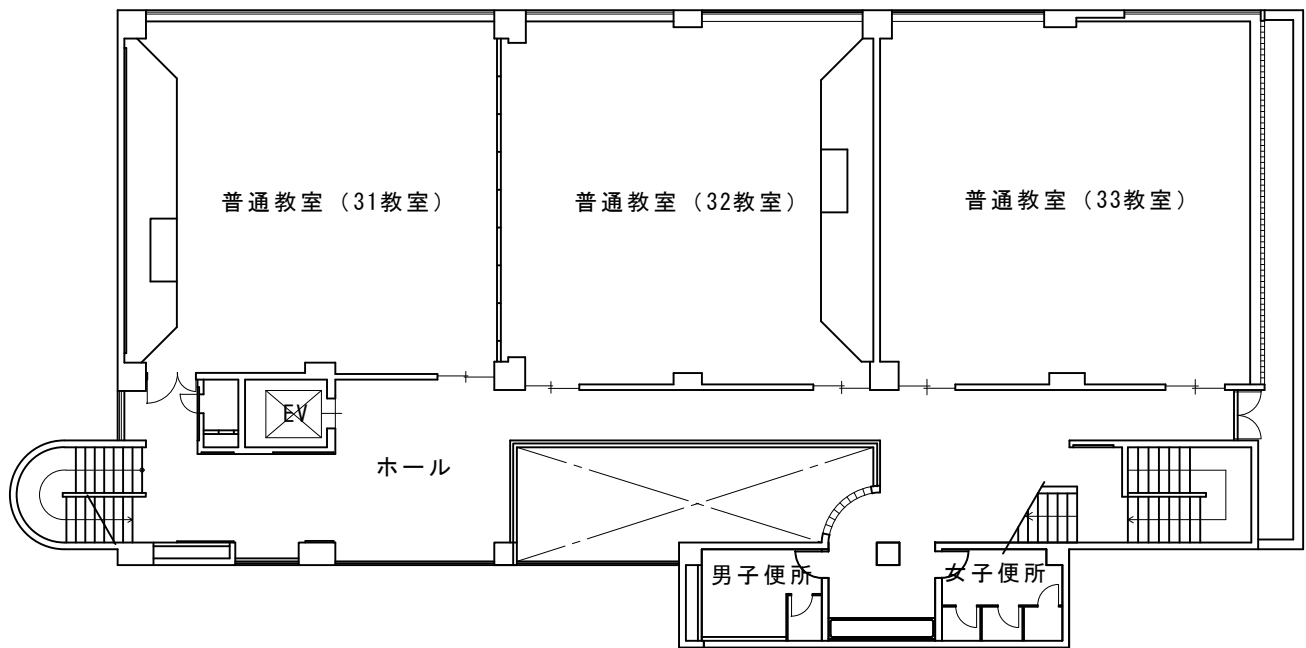
〒561-0872 大阪府豊中市寺内一丁目1-4-3 TEL06-6866-0800 FAX06-6866-1616

10 校舎配置図

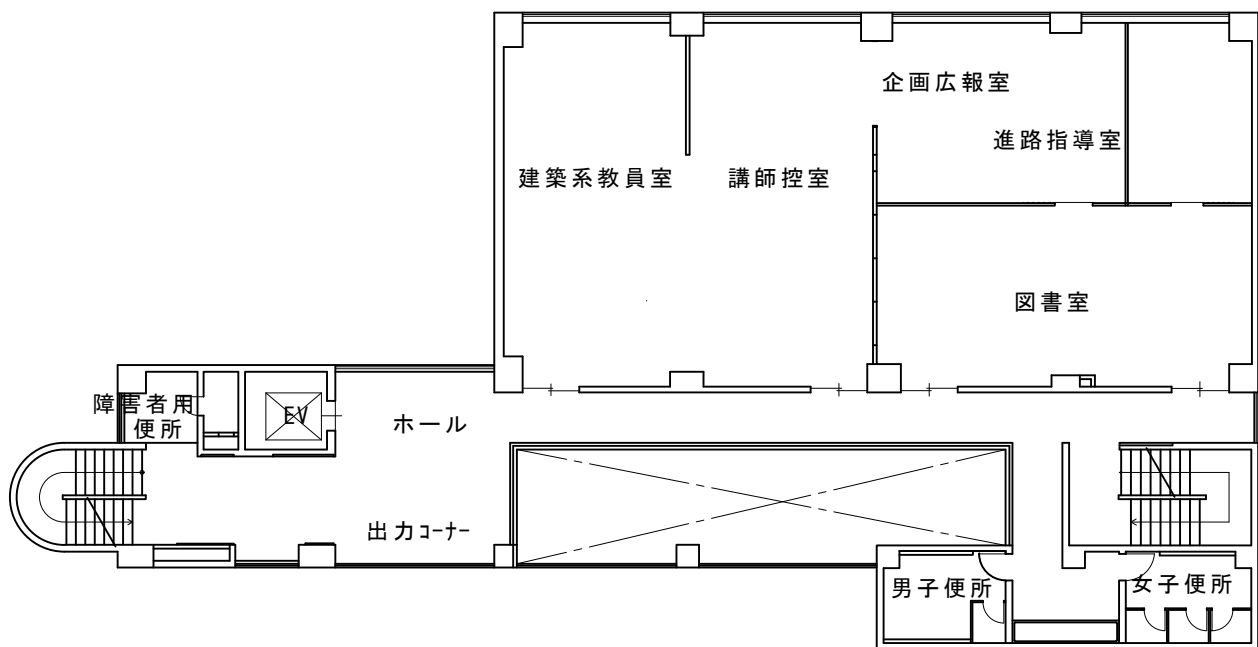
○ 1号館



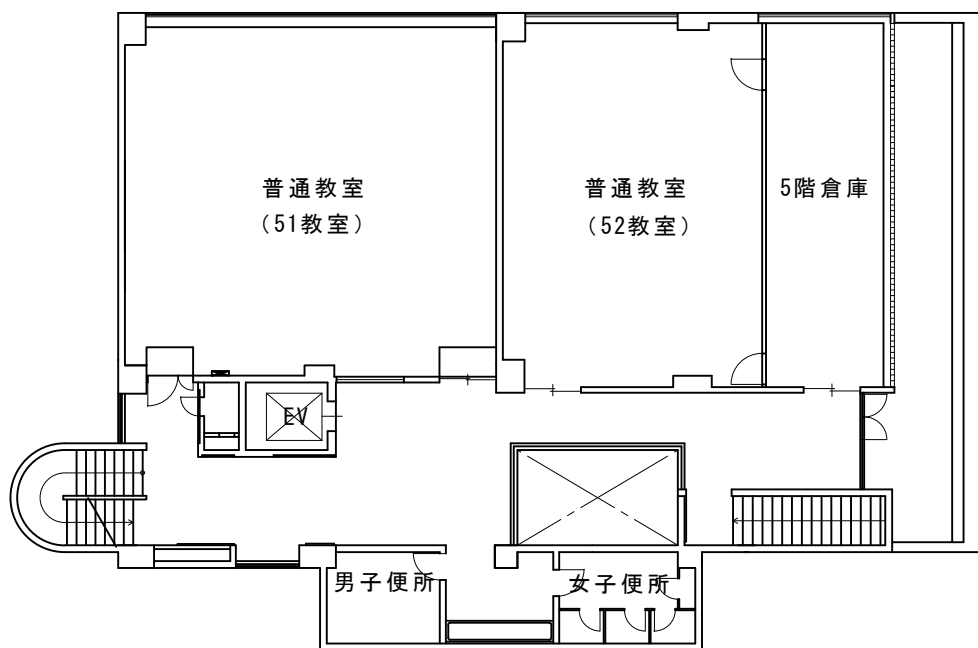
敷地配置図・1階平面図



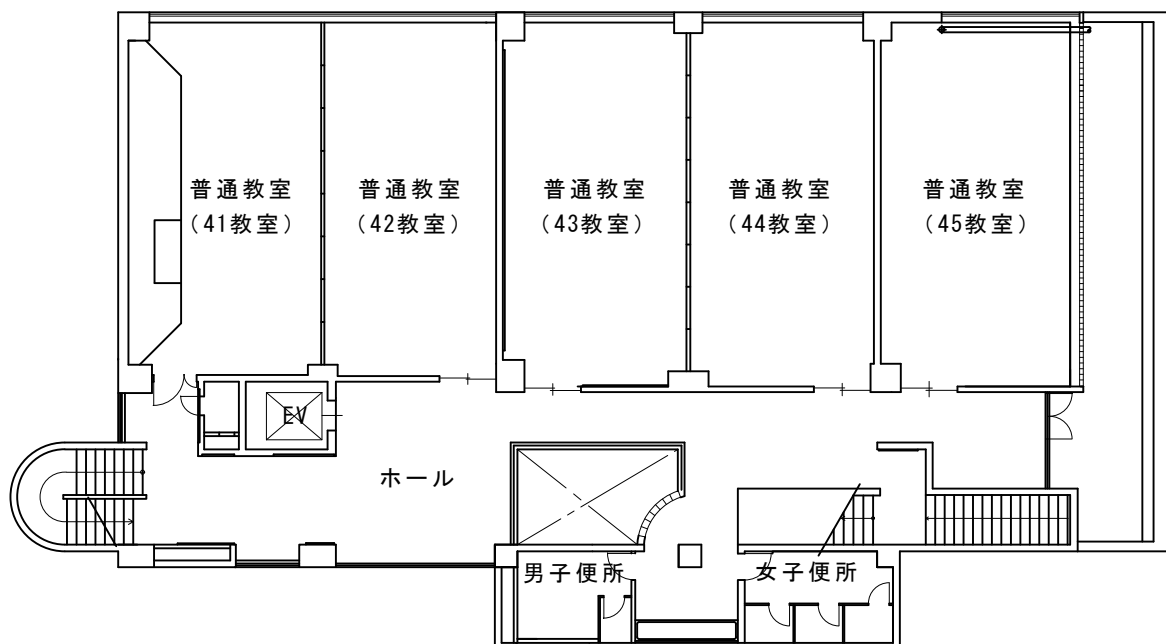
3 階 平 面 図



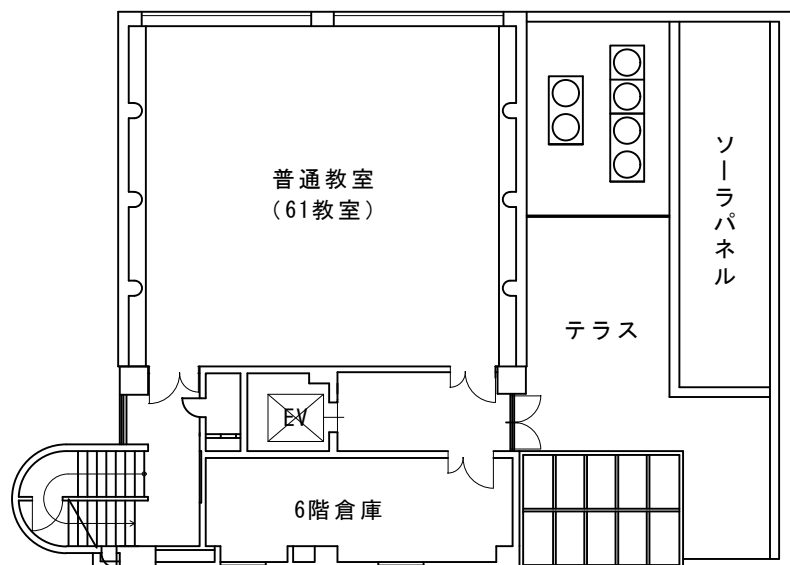
2 階 平 面 図



5 階平面図

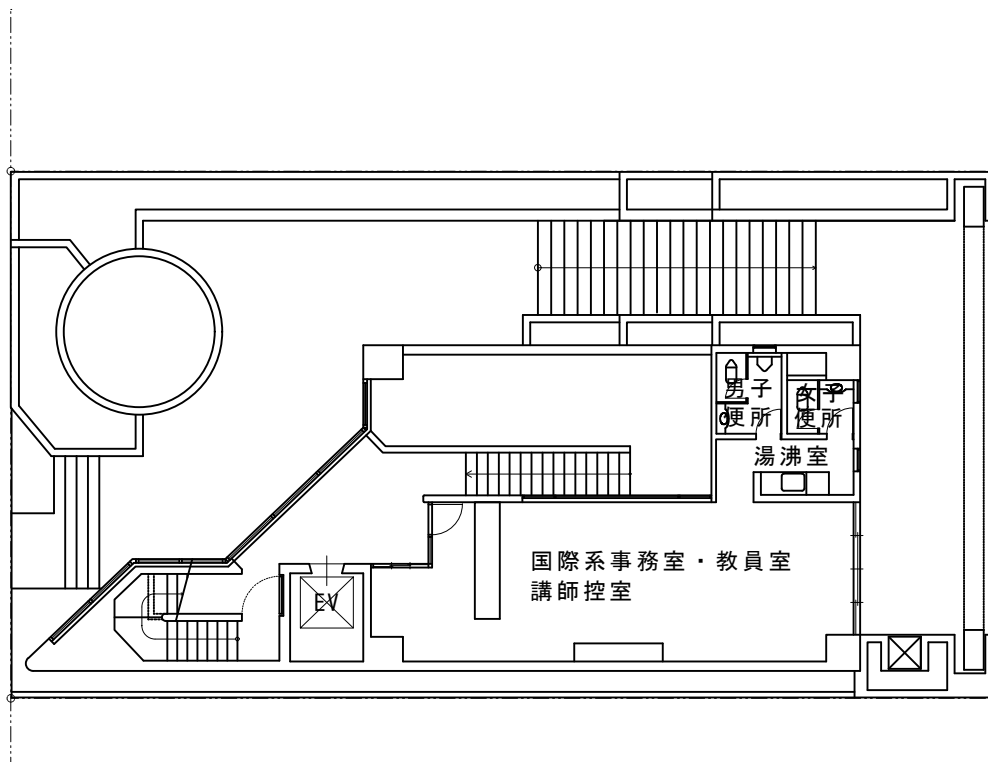


4 階平面図

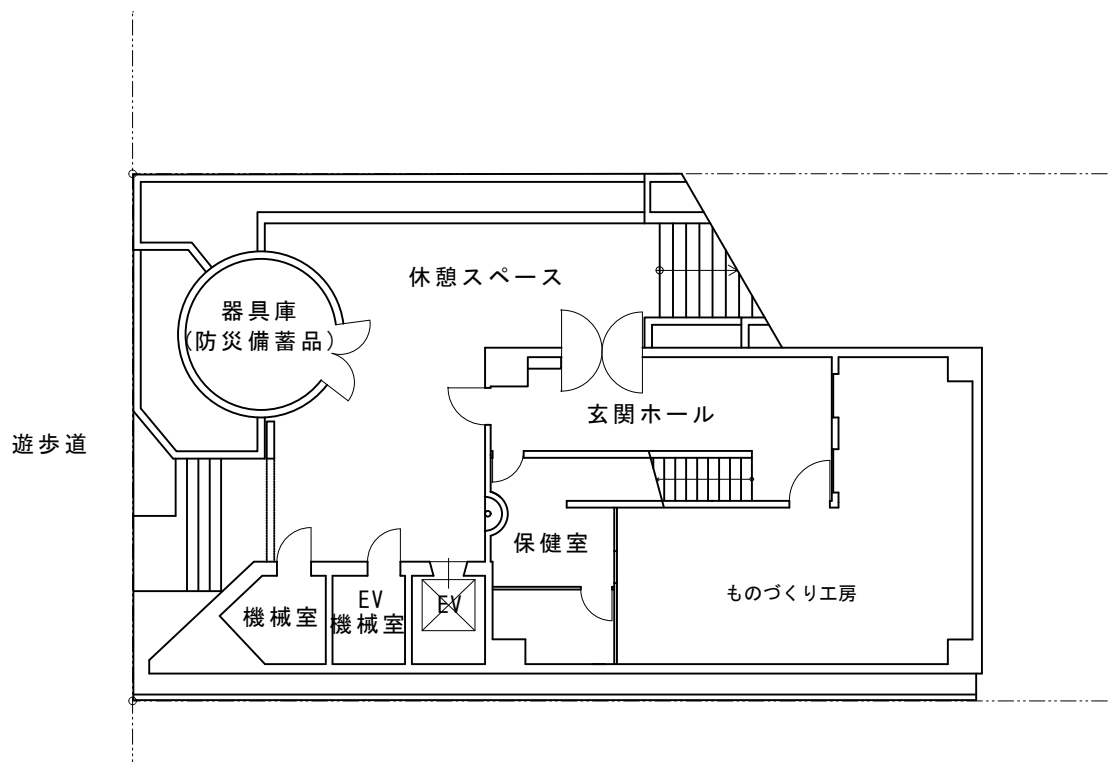


6 階 平 面 図

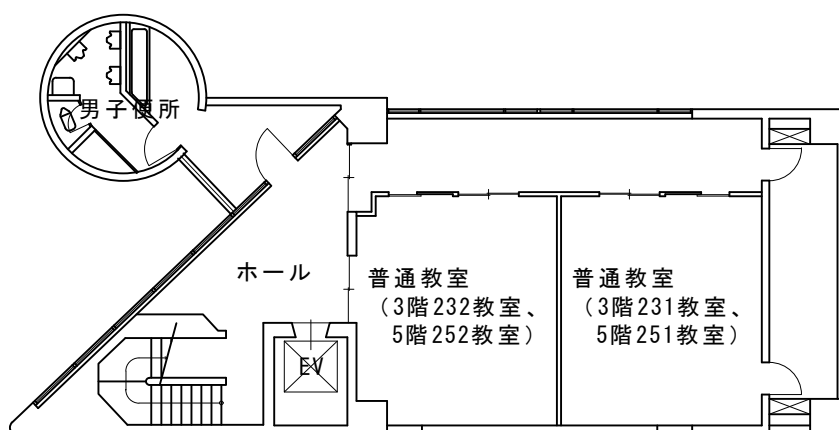
○ 2号館



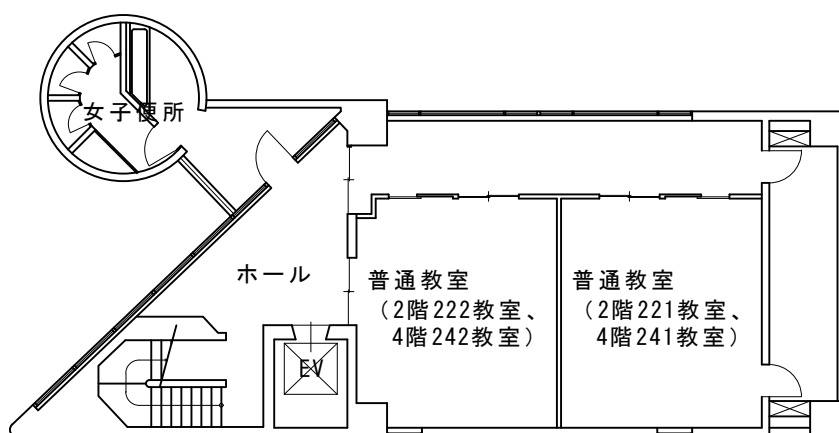
1 階平面図



敷地配置図・地下1階平面図



3 . 5 階 平 面 図



2 ・ 4 階 平 面 図